

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 3月 10日

事業所名 シルビアン音楽療育館

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	5		建物自体が狭い為、フロア(広場)を積極的に使い、広々と活動できるように工夫している	建物自宅が手狭。今後リフォーム等検討するのであれば広くすることを考えた方が良い。
	2	職員の配置数は適切である	7				人数はいるが質はまだ未だの為、資質向上に向けて勉強会等を検討している。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	3	2	2		フロアや各部屋への段差等は少ないが、玄関には段差がある。身体障がい児を受け入れ出来るよう段差をより減らせるよう検討する。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	4		職員全員参画しミーティングやモニタリング会議を行っている。	振り返り後の改善点の共有と実施が課題。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	4			今回の事業所評価を参考に業務改善に努
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	2		毎年ホームページで公開している。	周知しておらず公開を知らない職員と保護者も多いため、会報でお知らせを入れるようにする。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		5	2		今後検討したい。
適切な 支援の 提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	2		定期的に必要に応じて社内勉強会(研修)を行っている	しかし、外部研修の機会が少ない。今後も定期的に社内研修を行うと共に、外部研修の機会を確保できるよう努める。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7			定期的に子どもと保護者の課題を分析するモニタリング会議を開催し、次の計画に向けて議論を行なっている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	4		スケジュールボードや時計の模型などを利用し児童にわかりやすく伝えられるよう努めている。	事業所全体で使い方や共通意識を持って使用するようになる。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	3	4			
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	2		活動が固定しないよう毎月会議を行ない、活動の提案をしあっている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	1	6		児童に応じて休日は宿題時間を多めに設定している。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6	1			
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	3			
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	4	3		毎朝簡単なミーティングや適宜ラインを用いて、確認している。	今後も引き続き続ける工夫を行う。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	3		毎朝簡単なミーティングや適宜ラインを用いて、確認している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7				
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	2	4	1		地域支援について不足しており、力を入れていく事が課題。	

関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5		1		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	2	5			
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	3	2	1		該当児なし
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	5	1	1		該当児なし。提供できるような情報収集は適宜続ける。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		5	2		該当児なし。提供できるような情報収集は適宜続ける。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		4	3		該当児なし。今後出来るように情報収集する事が望ましい。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	2	2		該当児なし。今後出来るように情報収集する事が望ましい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		1	6		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	2			
保護者への 説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	1	5		
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	1	6			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	2	5			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している			7		以前は行なっていたが、現在なし。何らかの形で実現したい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4	3			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	7				
	35	個人情報に十分注意している	5	2			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	2			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている			7		地域交流の場を今後検討する。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	4	3		マニュアル策定しているが、職員・保護者への周知をしていない。周知方法を検討し、周知を行なう。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7			訓練を定期的に行なっている。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7		虐待防止委員会を設け、事業所内でも意識している。		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		5	2		該当児がいないが、必要に応じて検討が必要
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		5	2		該当児がいないが、必要に応じて検討が必要
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	1			